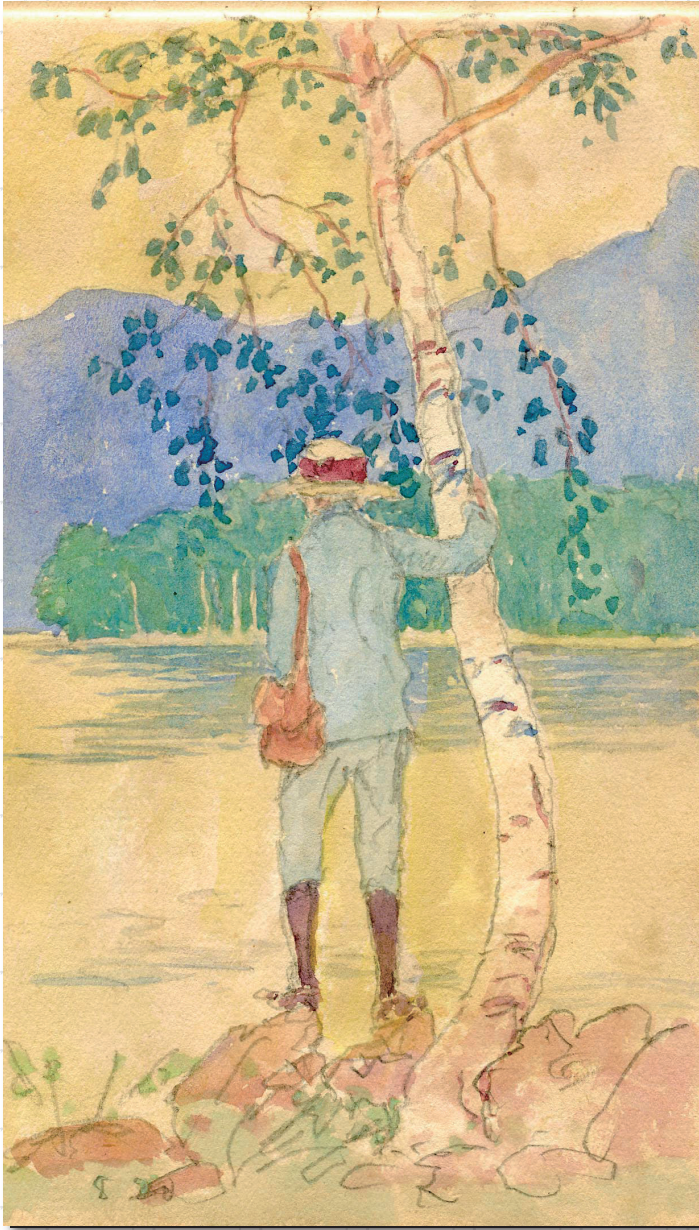


恒藤恭と芥川龍之介

— 時代と対峙した二つの知性 —

芥川龍之介（一八九二～一九二七）は近代日本文学界の巨人である。大阪市立大学初代学長の恒藤恭（一八八八～一九六七）は日本の法哲学の確立者、京大滝川事件の当事者、戦後民主主義の論客などとして知られる、近代日本文学界の巨人である。一九一〇（明治四十三年）、この二人は第一高等学校で出会い、生涯の親友となった。二人の交流は人生、文学、学問、社会などあらゆる問題に及んだ。

大阪市立大学には、多数の恒藤関係資料があり、そのなかに百点をこえる恒藤宛の芥川書簡もある。シンポジウムでは、芥川書簡を含む恒藤資料を紹介しながら、歴史学、文学、法学などの分野から、二人の知的巨人の交流内容、時代背景、恒藤と芥川それぞれの探究の現代的意味などを考える。なお十二月三日は恒藤の誕生日（生誕百二十一年）である。



芥川の後ろ姿 恒藤恭「赤城のスケッチ」（1913年）より

《報告》

「恒藤と芥川の世界認識をめぐる交流」

広川禎秀(大阪市立大学名誉教授)

「恒藤恭と芥川龍之介—蘆花『謀叛論』を介在として」

関口安義(文芸評論家・都留文科大学名誉教授)

《映像と解説》

「恒藤宛芥川書簡の紹介」

田中ひとみ(大阪市立大学大学史資料室非常勤研究員)

《コメント》

「法学の立場から」

桐山孝信(大阪市立大学法学研究科教授)

「井川恭の感情方面について」

上田 博(甲南大学大学院講師)

《司会》

大島真理夫(大阪市立大学大学史資料室長)

村田 正博(大阪市立大学文学研究科教授)

2009年(平成21年)
12月3日(木)午後1時～4時45分
大阪市立大学 学術情報総合センター10階
大会議室

◇特別展示

シンポジウム会場にて恒藤宛芥川書簡などを
展示します。(午前12時より)

■主催 大阪市立大学 恒藤記念室／大学史資料室

問い合わせ先 □大阪市立大学<杉本キャンパス>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

学術情報総合センター tel: (06)6605-3211/fax: (06)6605-3218

大学史資料室 tel: (06)6605-3371/fax: (06)6605-3372

シンポジウム・展示とも入場無料、申し込み不要となっております。
多数のご参加をお待ちしております。

プ ロ フ ィ ー ル

(登壇順)

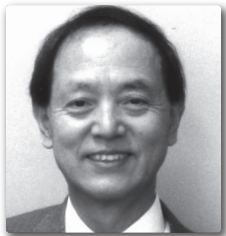


広川 禎秀 (ひろかわ ただひで)

大阪市立大学名誉教授。文学博士。

1941年生まれ。1971年京都大学大学院文学研究科博士課程退学。

日本近現代史の研究者。『恒藤恭の思想史的研究』(大月書店、2004)など、恒藤恭の思想史的研究をおこない、近作に「恒藤恭と芥川龍之介の交友をめぐる二、三の問題」(『大阪市立大学史紀要』第2号、2009)がある。長く大学史資料室長を務め、恒藤記念室の資料充実に尽力した。



関口 安義 (せきぐち やすよし)

文芸評論家・都留文科大学名誉教授。文学博士。

1935年生まれ。1972年早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。

日本近代文学の研究者。芥川龍之介研究の権威で、『芥川龍之介とその時代』(筑摩書房、1999)など、多数の著書がある。文学者の評伝作品も多く、芥川の親友であった恒藤恭についても、『恒藤恭とその時代』(日本エディタースクール出版部、2002)を出版している。



田中ひとみ (たなか ひとみ)

大阪市立大学大学史資料室非常勤研究員。文学修士。

2003年大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程修了。

『恒藤記念室所蔵資料目録』および『向陵記—恒藤恭 一高時代の日記—』の編集や、恒藤宛て芥川書簡の整理などに従事。大阪市立大学史に関して、「占領軍による大阪市有不動産の接收—大阪商科大学等のミリタリー・ターゲット指定問題を中心として—」(『大阪市立大学史紀要』第1号、2008)がある。

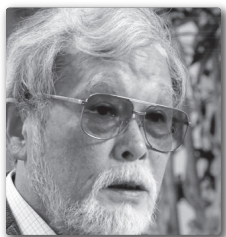


桐山 孝信 (きりやま たかのぶ)

大阪市立大学法学研究科教授。法学博士。

1958年生まれ。1986年京都大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。

神戸市外国語大学助教授、大阪市立大学法学部助教授を経て1999年より現職。国際組織法を担当し、著書・論文には、『民主主義の国際法』(有斐閣、2001)がある。恒藤の世界法研究も行っており、「恒藤恭の世界法論と田中耕太郎の『世界法の理論』」(『法学雑誌』54-1、2007.8)ほかの著作がある。



上田 博 (うえだ ひろし)

甲南大学大学院講師 文学博士。

1940年生まれ。1977年立命館大学大学院文学研究科博士課程退学。

日本近代文学の研究者。橘女子大学助教授、立命館大学教授などをつとめた。石川啄木、与謝野晶子の研究で知られる。『尾崎行雄:「議会の父」と与謝野晶子』(三一書房、1998)、『別離 (若山牧水)』(明治書院、2000)、『「職業」の発見』(共編著、世界思想社、2009)ほかの著作がある。

